

OWNER:近藤治朗サン  
購入年:'02年  
走行距離:38,000km  
平均燃費:12.5km/l  
最高燃費:18.0km/l

CDI LIFE

# E270 CDI

TEXT&PHOTOGRAPHS BY OMMADAWN

取材協力:コンクニ ☎052-882-8766 愛知県名古屋市昭和区高辻町13-27

## ディーゼルの魅力に取り憑かれ、自ら渡独し購入したE270 CDI

近藤サンはヤナセの営業マンを経た後、現在はヤナセ販売協力店であるコンクニの代表を務めている。マイカーも当然、メルセデスやVWを乗り継いできたわけだが、すべてがディーゼルだ。

「ディーゼルはうるさくて走らないって思っていたんですが、最初に買ったゴルフⅠのディーゼルがすごくスムーズで気持ちよく吹き上がってくれました。その時からディーゼルに対するイメージはガラリと変わり、ゴルフⅡ (GT-D)、W123 (300DT)、W124 (300D) とディーゼルばかり乗り続けました」という近藤サン。

'90年代半ば、メルセデスの国内ラインアップからディーゼルは消滅するが、'96年に近藤サンはオランダでW210の300Dを見つけて購入。これは3リッターのノンターボで名古屋～東京間を往復しても燃料がまだ半分残っているほど燃費が良く、月の燃料代も当時1万円以下で収まったとのこと。ただし、いいことばかりじゃない。大気汚染の元凶としてディーゼル排除の動きが強まっていた頃。キックダウン時にマフラーから黒鉛が出た際には「申し訳ない」と心の中でつぶやいたそうだ。

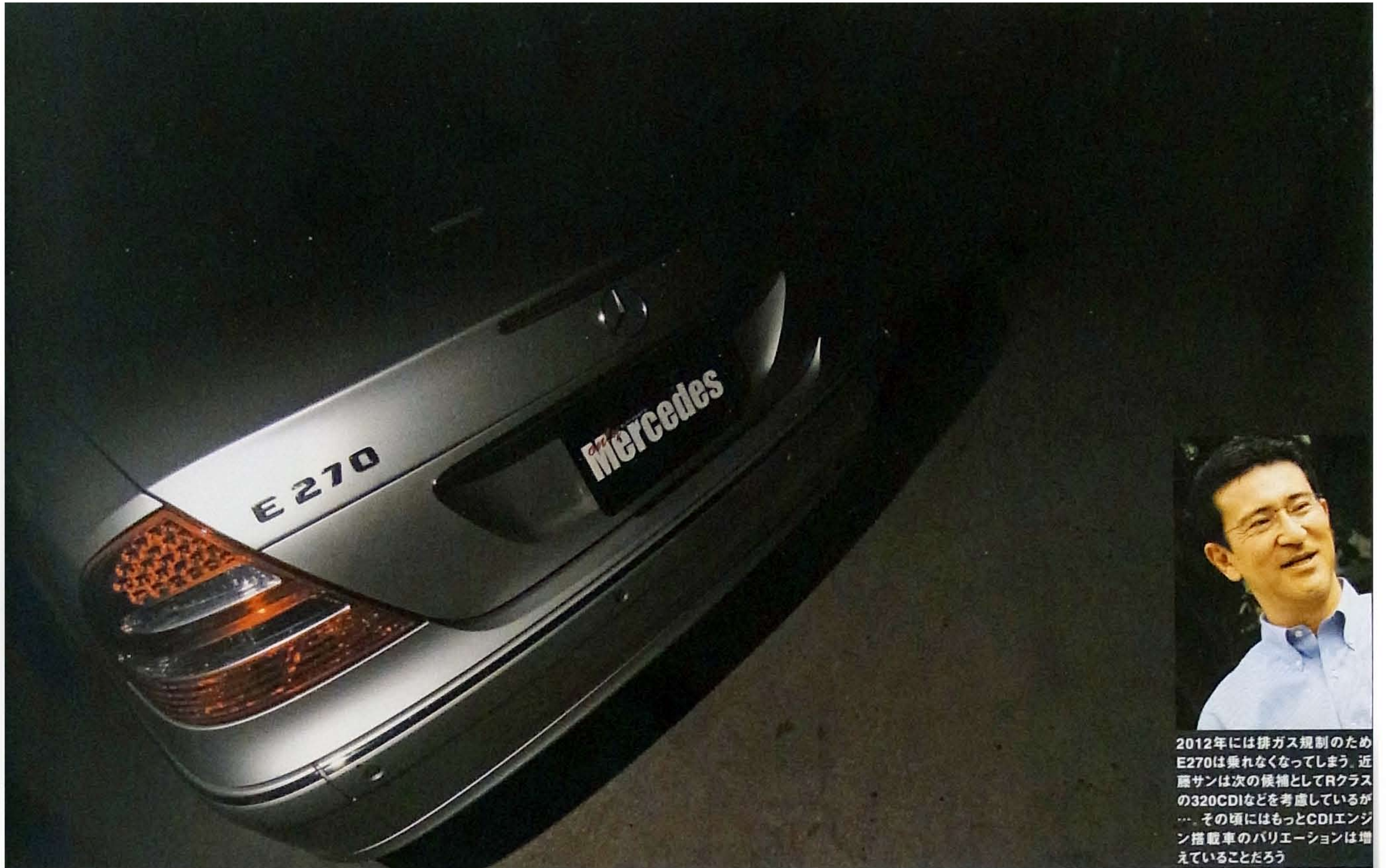
現在、乗っているW211のE270 CDIは'02年にドイツで購入したもの。ディーゼルを乗り継いできた近藤サンに

とって新世代のCDIは待ち望んだエンジン。国内ではMLの270 CDIが販売されていたが、セダンの安定感というのも近藤サンがメルセデスに求める要素。その両方を叶えるにはドイツまで行く必要があったわけだ。「この頃からディーゼルは温室効果ガスの排出が少なく経済的と言われ出しましたね。購入した当初は若干黒鉛が出ていましたが、最近の低硫黄軽油に切り替わってから黒鉛も出なくなりました」と進化したCDIエンジンに近藤サンも満足している。

多くの人にディーゼルの魅力を体感してもらいたいと願う近藤サンはヤナセが取り扱っていない車種の並行輸入も行っている。最近販売したE400 CDIはV8ツインターボでディーゼルとは思えない加速感が得られるそうだ。

「メルセデスに乗るのになぜディーゼル? と拒絶感を抱いている方は多いですね。しかしガソリン代が高騰している今日、ディーゼルに対する意識も変わってきたと思いますよ。それに今後はディーゼル車のラインアップも増えてくるはず。ガソリンから乗り替える方も多んじゃないですか」という近藤サン。性能の進化、ガソリン代の高騰、環境問題…ヨーロッパだけでなく、今はニッポンにもディーゼルは確実に追い風が吹いている。





2012年には排ガス規制のためE270は乗れなくなってしまう。近藤さんは次の候補としてRクラスの320CDIなどを考慮しているが…その頃にはもっとCDIエンジン搭載車のバリエーションは増えていることだろう



パノラマスライディングルーフには太陽電池が装備されており、停車中には電動ファンが作動する仕組みになっている。太陽が照りつける場所に駐車しておいても快適な室内温度にキープされているようだ。



いち早くCDIエンジンのセダンに乗りたくてドイツで購入したE270。オーダーシステムを利用してオリジナル発注したため、ドライバー側にダイナミックシートを選ぶなど近藤さんの望んだ仕様となっている。



W211のデビュー当時、CDIはE220/4気筒とE270/5気筒の2タイプがあった。今日のE320CDIと比べると騒音や振動など若干ディーゼル感が強調されるが、フラットトルクでスムーズに吹き上がってくれる